

あおぞら財団 年次報告書

Vol.7

2003.4~2004.3

もくじ

財団の活動 2

活動から 3

財政 10

別紙/2003年度あおぞら
財団の事業報告

2004年9月

財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

● 公害のないまちづくり

公害のない住みよい地域づくりを進める活動

- ・大都市がかかえる深刻な大気汚染の改善をめざして、企業や自治体と協働して低公害車の導入やエコドライブなど環境TDM（交通需要管理）を進める社会実験に取り組んでいます。実験は地球温暖化対策としても注目されています。
- ・道路公害問題の解決をめざして、公害裁判の和解条項に基づき設置された国・道路公団と原告の間に設置された協議会への政策提言づくりに、専門家と連携して取り組んでいます。

● 公害の経験を伝える

公害の経験を伝えるための資料保存・活用

公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習

- ・公害の経験を教訓として伝えるために、公害問題に関わってきた住民運動の資料の保存・整理に取り組んでいます。また、環境学習のための教材化を進めています。
- ・公害被害者団体と連携してアジアの公害被害者や環境NGOとの交流もしています。
- ・公害の経験を「被害の語り部」とともに伝える“出前教室”を小・中・高校・大学で実施しています。
- ・ブロックを使って地域の大气汚染の変化を学び、対策を考えるユニークな交通環境教育ワークショップを実践しています。
- ・体験学習や修学旅行、国際協力事業団などに協力して海外研修者を受け入れています。インターンシップによる研修生も活動しています。
- ・大阪府立西淀川高校と連携・協働して「西淀川公害常設展」など空き教室を活用した「あおぞらプラン」を進めています。

● 自然や環境について学ぶ

身近な自然や生き物たちが伝える環境情報を集める活動を子ども・市民の参加で続けています。タンポポやセミのぬけがら調査、矢倉海岸での野鳥、植物、干潟の生き物などの観察を、日本野鳥の会大阪支部や西淀自然文化協会などと協働して進めています。また、自然環境の保全、環境再生に向けた提言や地域づくり活動の支援に取り組んでいます。

● 公害患者の生きがいつくり

公害患者の健康回復や生きがいつくりを進める活動

公害患者を対象とした園芸教室、水中リラックス教室などを通して健康・生きがいつくりに取り組んでいます。また、高齢化する公害病患者の生活実態調査も進めています。

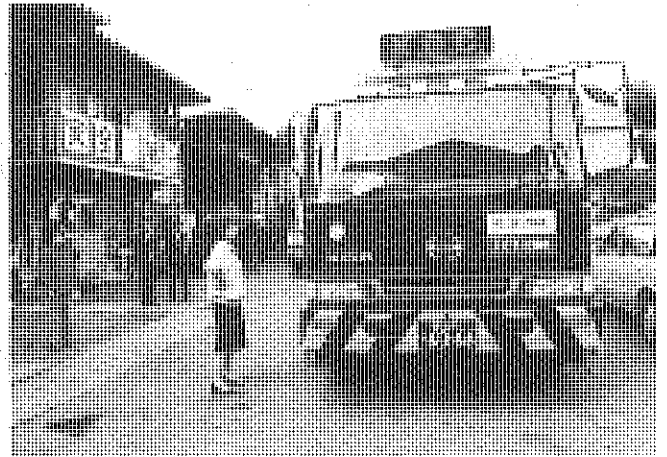
エコドライブ社会実験

こんなことをやりました

都心部での大気汚染による環境負荷は深刻な状況にあります。とりわけ大型トラック、ディーゼル車からの排ガス、運輸部門でのCO₂削減の必要性がいられています。あおぞら財団では1998年から5回にわたって「西淀川道路環境再生プラン」を作成し、大気汚染改善のための提言を行ってきました。一方で、行政の施策が遅々として進まない中、大阪大学の新田保次研究室との共同で、地域のパートナーシップで打開できるものはないかということを経験して探ってきました。その結果、まずは地元の中島工業団地にある事業者との共同で「エコドライブ」をやってみようということになり、2003年度は初めての実証実験にのぞむこととなりました。運輸部門、とりわけ中小企業における低公害化の実験は全国でもまだ例がない中、貴重な経験を蓄積することができました。

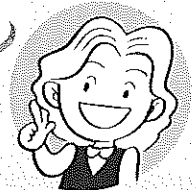
エコドライブとは「ECOLOGY DRIVE」（環境負荷物質の軽減）と「ECONOMY DRIVE」（省燃費）を掛け合わせた造語で、環境に配慮した運転方法により、環境保護、資源保護、経済的利益、穏やかな運転による安全性の追求などのことをいいます。今回は、デジタルタコグラフとエコドライブナビゲーションシステムという2種類の車載器を取り付け、経済速度で走る、空ぶかしをやめる、急発進・急加速・急ブレーキをやめて適切な車間距離をとる、シフトアップを早めにする、などの項目についてドライバーにナビゲイトすることにより、どれだけの効果を挙げることができるのかについて実験しました。

実験に参加してくださったのは、中島工業団地に事務所を構える三協運輸(株)。3台のトラックに車載器を搭載し、それぞれ1か月間の運転データを把握しました。結果、平均して約10%の燃費が削減。CO₂の排出量の削減につながることも分かりました。



担当者から

エコドライブは
1日にしてならず?!



地元・西淀川の事業者の皆さんとの共同で取り組む初めての実証実験。とにかく初めてのことはかりで手さぐりでやってきたというのが正直なところです。何とかやってこられたのは、多くの方々の支えがあってこそのこと。三協運輸の皆さんをはじめ、大阪工業団地協会、車載器メーカー、西淀川道路環境対策検討会、阪大・新田研究室、その他ご協力いただいた皆さまへの「感謝」のひとことに尽きます！（片岡法子）

つうしんぼ



大変な実験でしたが関係者のみなさんご苦労様でした。エコドライブが環境面のみならず、コスト削減に大きな効果を及ぼすことについて実証されたことが一番の成果です。今後の課題は、身近な地域で動くトラックでもこの効果を実証することです。

（新田保次／大阪大学大学院工学研究科教授）

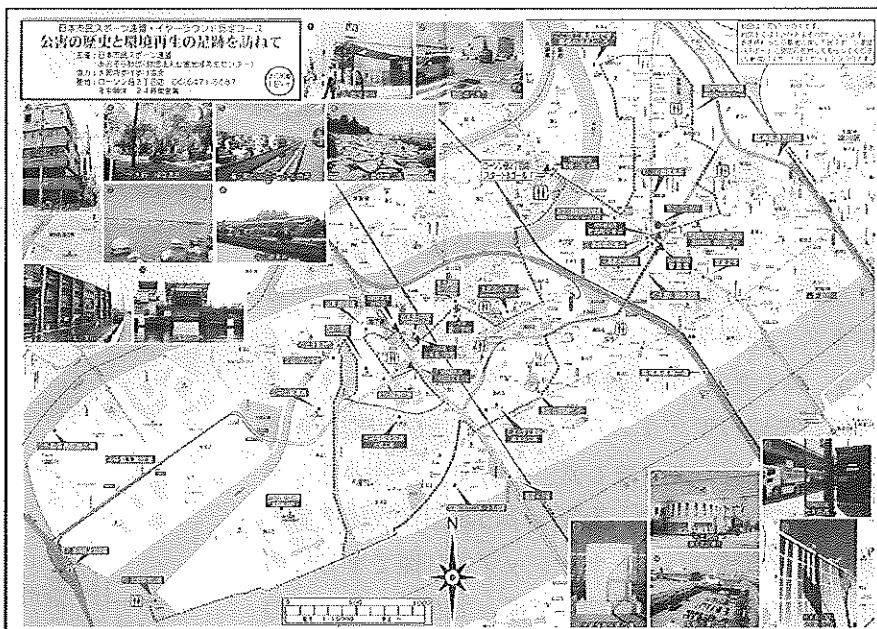
2003年の活動から

公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習

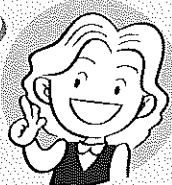
公害の被害を軸に

こんなことをやりました

公害患者さんの体験、裁判闘争、患者会の運動の歴史を基盤にして、公害地域の再生を実現するために、次代を担う子どもたちに体験を伝え、環境を考える意識を育てる活動です。



担当者から



ウォーキングマップを つくりました

2003年度の環境学習分野の取り組みは、公害・環境学習に関連したオリエンテーリングコースの設置ということで出発しました。西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会メンバーの一人で大阪府立三島高校の松井克行先生に、大阪府歩け歩け協会副会長・大西良則さんをご紹介いただきました。

大西さんのお話を聞いて、子ども・学生向けの区内オリエンテーリングコースづくりから、よりたくさんの市民に利用していただけるように日本市民スポーツ連盟認定のイヤラウンドコースを二通り作り、マップを作成することになりました。「西淀川区の史跡探訪」と「公害の歴史と環境再生の足跡を訪ねて」で、両方とも約20km弱の道のりです。

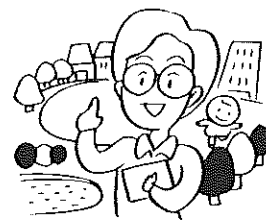
この秋、広くみなさんによびかけて、約10kmのコース設定で、オープニング大会を開く予定です。奮ってご参加ください。(達協明子)

西淀川高校に西淀川地域の常設展示制作

西淀川高校の生徒数減少にともなう余裕教室活用の方策として、高校から「あおぞらプラン」が提案されました。地域と公害被害の歴史を中心にした常設展「西淀川の今昔」を制作しました。見学希望の方は、高校にお問い合わせください。

つうしんば

ウォーキングマップを作成して



町中を歩いてみると西淀川区には数多くの由緒ある史跡や大東亜戦争の悲劇を伝える遺構が残っています。公害に汚染された川や海が遊歩道や緑地公園に生まれ変わり、緑の多い整備された小公園が町の各所に点在し、大規模高層住宅群が増え、その周辺街路の整備が進められました。美しい町並みを形成していくのを目の当たりにすると、この地域がかつて激甚な公害地域であって、大気汚染のために多くの住民の方が苦しめられたことが想像できません。公害問題を契機として、古い文化を守り新しい文化を創り上げていく町づくりの姿が見えるようです。

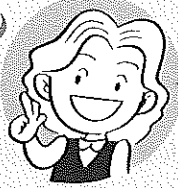
(大西良則/大阪歩け歩け協会副会長)

資料館をめざして

こんなことをやりました

西淀川公害に関する住民運動資料や訴訟記録を中心に資料の保存・整理をしています。公害のこと、住民運動のこと、裁判のこと、地域のことなどが、資料を通して明らかになり、後世に正しい事実が伝えられていくことに役立つことをめざしています。

担当者から



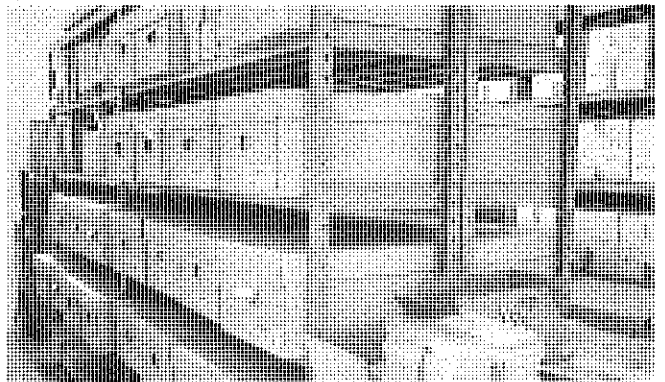
くたびれた段ボール箱に
くたびれます
恒例になりつつある
夏のインターンのお仕事

ホンノちょっとずつ、ちょっとずつですが、みんなの力で書庫の中の資料、開架している図書・資料の整理が進んでいます。財団の書庫はビルの最上階（6F）にありまして、空調設備は一切なく、温度・湿度の管理はゼロ。真夏はうだるような暑さです。資料がめいっばい詰め込まれ、くたびれた段ボール箱は重くて持ち運びが大変です。そんな、資料にとっても人間にとっても悪条件の中、アルバイトの人やインターンの大学生たちは、まじめな態度で資料に向き合って、それぞれの力を大いに発揮してくれました。感謝、感謝です。

「地域資料」をテーマに新たな輪

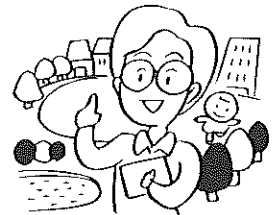
6つの団体が共催した「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」（11月29日：於・大阪歴史博物館）は、はじめての取り組みでしたが、会場の定員を超える70人が参加して盛況でした。会場に集まった方々を目の前にしたとき、地域資料、記録、情報、アーカイブズといった事がらにたいする関心の高まりを実感しました。この気運を盛り上げていく中で、あおぞら財団が所蔵する公害問題資料の社会的・歴史的意味がいろんな角度から論じられていくようになるよう、事業展開していきたいものです。（鎗山善理子）

今年度は、目録や所蔵資料概要の作成、インターネットサイトのリニューアル、「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」開催事務局、西淀川地域研究会への協力などを進めてきました。



つうしんば

西淀川公害問題 資料館の発足へ



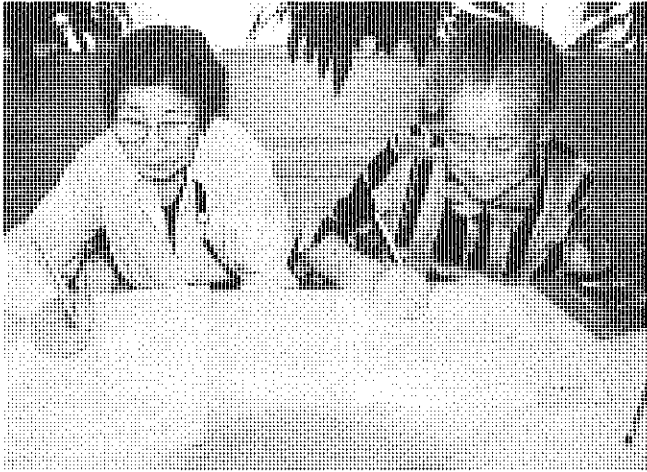
資料保存の事業は、財団内外の多くの人たちの努力と協力によって着々と成果をあげてきました。「あおぞら」は、資料保存に取り組むユニークな民間団体として、アーカイブズの世界でちょっとした「名士」です。それが「虚名」に終始しないため、今が正念場と言えるのでしょうか。すべての成果を基礎に、ミニ資料館を発足させたいものです。ミニ資料館は、公害経験が地域再生にどんな意味をもつかを問い続ける拠点となるでしょう。

（芝村篤樹／あおぞら財団理事）

2003年の活動から

公害患者の健康回復や生きがいづくりを進める活動

公害患者のいまは…



西淀川公害患者と家族の会会員への聞き取り調査の様子

こんなことをやりました

12,000人の声—生活実態調査の実施—

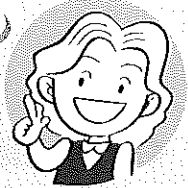
全国の公害病認定患者（約54,000人）の高齢化が進んでいます。

患者さんの日頃の認定疾病の症状や加齢にともなった生活実態の困難な状況を把握するために、どのようなアンケート調査を実施するのがよいのか、西淀川公害患者と家族の会会員、約200人の協力を得て、聞き取り調査を実施しました。

参加した患者さんからは、「公健法（公害健康被害の補償等に関する法律）があるから生活ができる」、「毎日通院して点滴を打たないと体が持たない」、「公害病を診察してくれる病院がなくなってきた」などの意見がだされ、その声をもとに、よりわかりやすく、より答えやすい調査票を提案することができました。

その後、環境省は、全国の65歳以上の患者を対象としたアンケート調査を初めて実施しました。対象者は18,862人、そのうち12,232人から返信がありました（回収率65%）。財団はこの調査票の作成にかかわった経過から、調査の問い合わせ先になりました。調査期間の約1ヶ月に全国から100件以上の電話がよせられ、調査への関心の高さが伺えました。

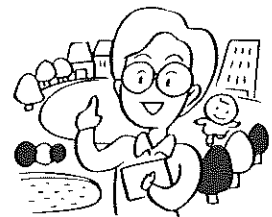
担当者から



自宅と病院を往復するだけで大変な患者さんに、調査に参加・協力してもらえるのか、実際にやってみるまではとても心配でした。一番印象的だったのは、「本当に私たちのためになるのか」という患者さんの意見です。また、書面調査では把握できない苦しさや辛さなどの想いを、電話を通じて直接肉声で聞くことができました。

高齢の患者さんをはじめとした全国54,000人の患者さんの声に答えていけるよう、まずは、具体的にどのような援助ができるのか検討して、1日も早く実現するよう、関係機関に要請をしたり、地域のさまざまな方の協力を得て、実際に試行できるようにしていきたいと思います。（矢羽田薫）

つうしんば



先日環境省が行ったアンケート調査に対して全国の65歳以上の公害患者さんの65%の人が返信したのは私も正直ビックリしました。せいぜい5%の返信があればいいかな？って思っていたからです。このアンケートの作成にあおぞら財団が関わったのはとてもうれしかった。調査結果が出るのが楽しみです。

（辰日致／あおぞら財団評議員）

この1年、リベラに登場していただいたみなさんです。
バックナンバーご入用の方は事務局まで。(1部400円 送料別)

2003年5月号 とおせんぼ まちの中に潜む危険をチェック「地域調べ安心なまち」を開催

No.72 【特集】環境再生

- ・ 除本 理史／川崎の公害地域再生に関する研究者サイドの取組み
- ・ 大島 堅一／現在の環境問題と環境再生の課題
- 【弁護士が語る「西淀川公害裁判」シリーズ1～大気汚染公害裁判が私たちに教えてくれるもの～】
- ・ 早川 光俊／公害裁判史上における西淀川裁判の位置づけ
- ・ 津留崎直美／西淀川公害裁判の争点
- 【ほんの紹介】進士五十八編『環境市民とまちづくり①自然共生編』
- 【秋津人】片岡 法子／パーマカルチャー
- 【忙中一筆】南 聡一郎／フランス・ストラスブールへ留学中

2003年7月号 被害を語る

No.73 【特集】環境学習

- ・ 片岡 法子／原田智代／松村暢彦／
まちにひそむ危険を発見！～せいわエコクラブとの共同で取り組んだ「地域しらべ」の実践から～
- ・ 達脇 明子／西淀川での公害・環境学習の実践から
- ・ 天野憲一郎／「総合の学習時間」で「西淀川の公害」に取り組んで
- ・ 伊藤 司／あおぞら財団と授業に取り組んで
- ・ 加納 邦子／歌島中学校の「西淀川公害」学習の取組み
- ・ 松井 克行／西淀川高校での環境学習の取組みについて
- 【秋津人】矢羽田 薫／質問力
- 【忙中一筆】中村真佐子／「大阪から公害をなくす会」事務局員

2003年9月号 追体験 ～韓国の司法修習生が研修で来阪～

No.74

- 【SHITEN】炭谷 茂／環境再生への始動
- 【プラス+Place】南 聡一郎／①少し自動車を我慢する
- 【特集】環境保健
- ・ 橋本 孝子／公害患者の在宅環境づくり～介護保険の活用を通して～
- ・ 辰巳 致／聞き取り調査～西淀川の取組み～
- ・ 里見 和彦／キーワードは自立支援～高齢化がすすむ公害患者～
- 【ほんの紹介】高橋理喜男『絵本の中の都市と自然』
- 【秋津人】鎗山善理子／田んぼでリフレッシュ
- 【忙中一筆】中井 誠／名古屋南部地域再生センター研究員

2003年11月号 見える？ ～秋の矢倉海岸いきものしらべを開催～

No.75

- 【SHITEN】森脇 君雄／追悼の言葉～黒田了一元知事を偲ぶ会で～
- 【プラス+Place】南 聡一郎／②市民と行政の協議
- 【特集】司法改革
- ・ 鈴木 堯博／司法による市民のための司法をめざして ～司法改革の現状と課題～
- ・ 村松 昭夫／弁護士報酬の敗訴者負担の導入に反対しましょう
- ・ 池田 直樹／ロースクールに期待されるもの
- 【ほんの紹介】土井 三郎「教材資料『淀川』」
- 【秋津人】大野みさ子／どじょうすくい特訓中
- 【忙中一筆】鎌田 義昭／野里住吉神社宮司

2004年1月号 息を合わせ ～大阪府立西淀川高校の文化祭に参加～

No.76

- 【SHITEN】北元 敏夫・上田 敏幸／
都市の中心・銀行の前庭にケヤキとクマゼミのコミュニティが成立～優れた自然環境再生にケヤキ植樹を提案～
- 【プラス+Place】南 聡一郎／③文化としてのみちと広場
- 【特集】道路環境市民塾

- ・片岡 法子／持ってくるものは“柔軟な頭”と“自分と違う意見を聞く耳”
～道路環境市民塾運営委員会の挑戦～
- * 道路環境市民塾 (2003年4月～10月) のテーマとゲスト、参加者へのメッセージ
- * 道路環境市民塾に参加して～運営委員から一言～
- ・宗岡 明弘／出会いと勉強の「場」として
- ・山本 将／関心、意識の高さに驚き
- ・森本 純代／悩みを共有したことで…
- ・辰巳 致／環境と向かい合う生活
- ・松井 克行／授業に活かしたい
- ・昌子 裕一／考えることから行動へ
- ・松村 暢彦／耳を傾ける姿勢が重要
- ・村松 昭夫／全国でもめずらしい
- ・南 聡一郎／フランスからひとこと
- ・左成 志朗／利害を超えての合意形成
- 【レポート】 キム チョルジェ／日本修習紀行 (韓国から司法修習生7人が来阪)
- 【秋津人】 上田 敏幸／望年会
- 【忙中一筆】 原田 智代／せいわエコクラブ代表サポーター

- 2004年3月号 No.77
- ワークショップーYMCA学院高校でSCPブロックをつかった授業を実施ー
 - 【SHITEN】 芝村 篤樹／「シンポジウム・地域資料の保存と活用を考える」について
 - 【特集】 地域づくりと子どもの参画
 - ・安村 博文／地域と連携した「余裕教室活用事業」
 - ・吉本 剛／90日間の職員室生活～意外に良い座り心地～
 - ・江川みえこ／地域を知ろう、あそぼう、つながろう 『子どもの参画』 べんきょう会に参加して
 - 【プラス+Place】 南 聡一郎／④バリアフリーーマイノリティの交通権の保障ー
 - 【レポート】 矢羽田 薫／ソウル大改造ー清溪川復元事業見聞録ー
 - 【秋津人】 達脇 明子／信州・松本へ
 - 【忙中一筆】 尾陰由美子／(仮)アクトスペース企画代表取締役

財団を支える賛助会員になってください

あなたの会費、寄附ボランティア活動が当財団の活動を支えています。
当財団の目的に賛同してくださるみなさん、ぜひ賛助会員になってください。
ボランティアも募集しています。

会費

個人賛助会員 年 5000円
法人・団体賛助会員 10000円

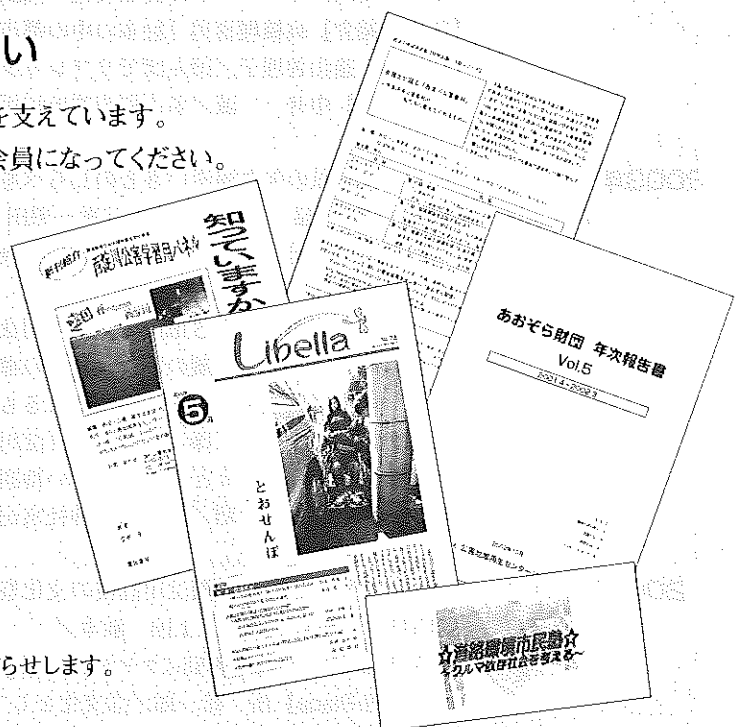
会費・寄附の振込先

郵便振替口座 00960-9-124893
加入者名 あおぞら財団

賛助会員になると…

機関紙Libellaをお届けします。(年6回)
年報をお届けします。(年1回)

財団の主催するイベント、講座、研究会などの情報をお知らせします。
会員限定のいろいろな割引があります。



2003年度の財政状況

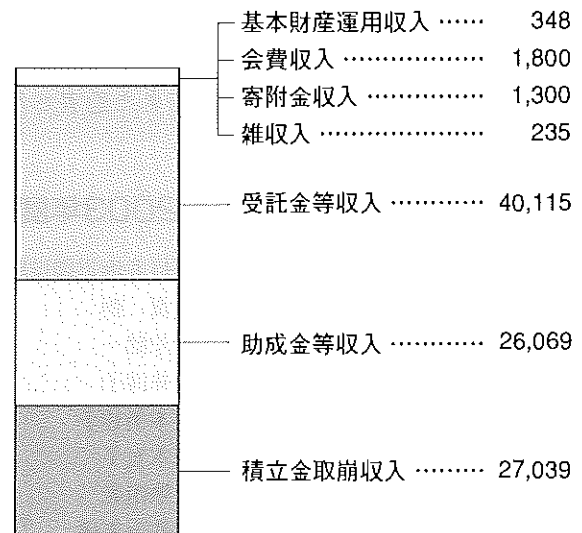
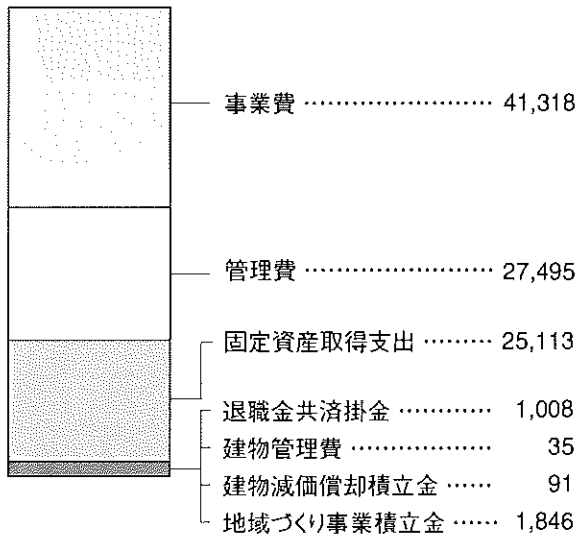
(2003年4月1日～2004年3月31日)

●当期収入・支出の状況

(単位：千円)

支出 合計 96,906

収入 合計 96,906

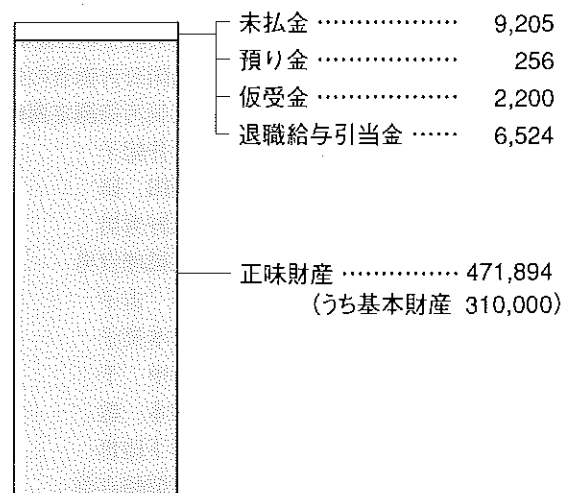
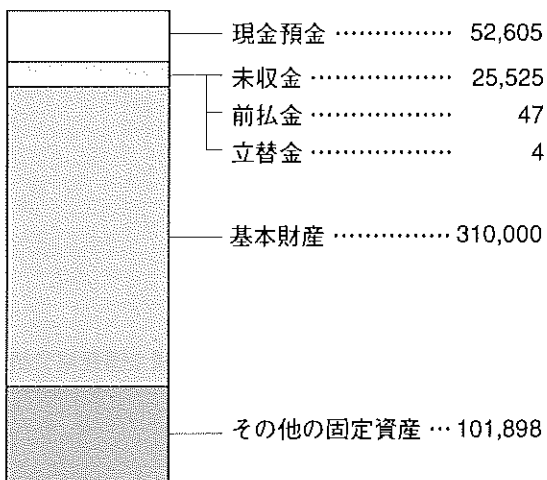


●貸借対照表

(単位：千円)

資産 合計 490,079

負債・正味財産 合計 490,079



あおぞら財団にお力をおがしく下さい

産業活動など人間の手で環境が破壊され、たくさんの方が病気になる公害。昔も今も真っ先に犠牲になるのは、子どもとお年寄りです。

あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や命を奪われた公害患者さんが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。

病気の身体で長い間裁判をしてきた患者さん

が生み出した合言葉～「手渡したいのは青い空」には、日本とアジアの子どもたちに空気の汚れによる環境破壊や健康被害を絶対に味わせたくない、との思いがこめられています。

安全で住みよいまちの主演はあなたです。いっしょに、住みよいまち、生命が輝くまちをつくりましょう。

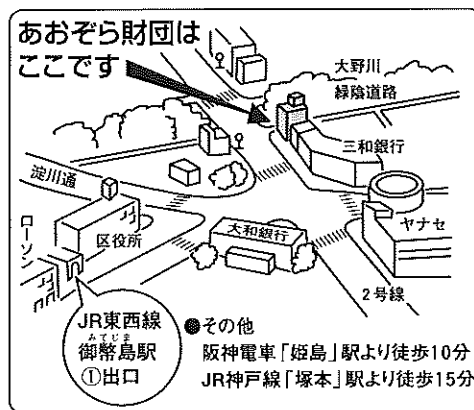
2003年度寄附・寄贈者(敬称略)

尼いもクラブ
井奥圭介
池上甲一
池田佳子
泉 邦彦
稲谷早苗
李 容相
植田和弘
上田幹枝
江川節雄
遠地昭典
遠藤宏一
逢坂隆子
大阪自治体問題研究所
大阪市立大和田小学校
岡林一夫
小沢秀造
小田康德
織原 康
笠井俊彦
片岡直樹
金山陽子
金谷邦夫
蒲田隆史
鴨 正洋
加山 弾
川脇理恵
神吉紀世子
木村邦男
京都ドイツ文化センター
熊野実夫
交通エコロジー・モビリティ財団
是枝 洋
(財)大学コンソーシアム京都
(財)トロのふるさと財団

(財)北海道環境財団
佐賀 朝
酒井健一
坂井洋子
坂本美頼子
坂本允子
佐無田光
澤井余志郎
塩貝隆夫
汐見文隆
柴田昌美
芝村篤樹
社団法人 瀬戸内海環境保全協会
昌子裕一
饒村彰子
庄谷邦幸
震災・まちのアーカイブ
進士五十八
全大阪生活と健康を守る会連合会
全国公害患者の会連合会
大気汚染測定運動東京連絡会
田井紀子
高田 研
高野秀男
高橋理喜男
卓 吉子
竹本笑子
田中 千
塚本 敬
津下佳世
津留崎直美
土井三郎
長井聖治
中島 晃
中山 徹

なにわ保健生活協同組合
新村保子
西口 勲
西淀自然文化協会
新田保次
長谷川慧重
馬場明男
早川光俊
林 曠子
原田智代
肥田敬之
檜谷美恵子
福富和夫
福本富男
藤川ハルエ
牧 洋子
松井克行
松村暢彦
松本省臈
松本 誠
三村浩史
三宅宏司
宗岡明弘
村上 敏
村杉幸子
村松昭夫
森山正和
薬害ヤコブ病被害者・弁護士全国連絡会議
安村博文
(株)山崎シャーリング
山西良平
山本 将
除本理史
立命館大学国際平和ミュージアム

- 理事長** 森脇君雄 (全国公害患者の会連合会幹事長、西淀川公害患者と家族の会会長)
- 理事** アグネス・チャン (歌手、日本ユニセフ協会大使、教育学博士)
 金谷 邦夫 (うえに生協診療所所長、内科医師)
 塩崎 賢明 (神戸大学教授・同大学院自然科学研究科教授、都市計画)
 芝村 篤樹 (桃山学院大学教授、日本近代都市史)
 進士五十八 (東京農業大学学長、造園学)
 早川 光俊 (弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事)
 宮本 憲一 (元滋賀大学学長、環境経済学)
 村松 昭夫 (弁護士)
 森脇 昭夫 ((財)地球環境戦略研究機関理事長、中央環境審議会会長、名古屋大学名誉教授、法学)
- 監事** 熊野 実夫 (公認会計士)
 福本 富男 (弁護士)
- 顧問** 高橋理喜男 (大阪府立大学名誉教授)
 都留 重人 (一橋大学名誉教授)
- 評議員** 天野 明弘 (兵庫県立大学副学長、環境経済学)
 植田 和弘 (京都大学大学院教授、環境経済学)
 逢坂 隆子 (四天王寺国際仏教大学大学院教授、公衆衛生学)
 太田 映知 (全国公害患者の会連合会事務局長、(財)水島地域環境再生財団理事・事務局長)
 神吉紀世子 (和歌山大学システム工学部助教授、農村計画)
 北元 敏夫 (同志社大学講師、西淀まちと自然の会幹事、森林生態学)
 小池信太郎 (公害・地球環境問題懇談会幹事長)
 高田 研 (岐阜県立森林文化アカデミー教授、環境教育)
 高田 昇 (立命館大学教授、大阪都市環境会議幹事長、都市計画)
 辰巳 致 (西淀川公害患者と家族の会事務局長)
 壺井 貞志 (大阪環境保全事業協同組合理事長)
 津留崎直美 (弁護士)
 林 功 (大阪から公害をなくす会事務局長)
 樋口 市蔵 (西淀川地域振興会会長)
-
- 事務局** 上田 敏幸 (総務)
 大野みさ子 (会計)
 片岡 法子 (研究員)
 達脇 明子 (研究員)
 鎗山善理子 (研究員)
 矢羽田 薫 (研究員)
 藤江 徹 (研究員)
 水野 順子



あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や生命を奪われた患者たちが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。



財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階
 TEL: 06-6475-8885 FAX: 06-6478-5885
 URL: <http://www.aozora.or.jp/>
 E-Mail: webmaster@aozora.or.jp

無断転／掲載を禁じます。

あおぞら財団の事業報告

1. 組織

7月に理事会、評議員会の新しい体制がスタートした。また、中期事業計画策定委員会を設置し、2007年3月末までの「第2期中期計画」を検討、理事会の承認を得た。

賛助会員は、3月末日時点で個人156、法人16、団体25となっている。

名古屋南部地域再生センター設立準備会(当時)の中井誠さんが約3ヶ月間の研修をおこなった。(財)大学コンソーシアム京都・NPOコース、桃山学院大学、奈良女子大学、龍谷大学大学院法学研究科NPO・地方行政研究コースから計8人のインターンシップ実習生を受け入れた。

2. 財務

2月24日、財団が入居しているビルとその土地を、西淀川公害患者と家族の会と共有で購入した。購入資金として環境再生推進事業積立金を取り崩した。

3. 広報・活動交流

(1) 広報

リベラ(No.72~77)を隔月発行した。また、年報を10月に発行した。

ホームページは定期的に掲載情報の更新をおこなった(20回、アクセス数:年間約18,000回)。8月よりメールによる情報発信「あおぞら EXPRESS」をスタートした(約660人への配信)。

(2) 活動交流

①他団体との連携

西淀自然文化協会との協働イベントに年間を通して取り組んだ他、公害環境デー実行委員会、気候ネットワーク運営委員会、大阪子どもの水辺ネットワーク、第22回日本環境会議・滋賀大会、西淀川区内の各種団体で構成する「まちづくり考える会」等の活動に参加した。

②外部への意見発表等

「平成14年度環境省政策評価(案)」、「社会資本整備重点計画の素案」、「環境基本計画の進捗状況の第2回点検結果(素案)」、「地域再生推進のための基本方針およびプロジェクト」にそれぞれ意見を出した。また、「NGO/NPO・企業の環境政策提言」に「子どもの参画べんきょうかい」および「公害問題資料保存研究会」との共同による提言作成を行った。

4. 部門別事業

(1) 公害のない住みよい地域づくりを進める活動

(地域づくり)

①市民参加による道路環境対策推進事業

【西淀川道路環境対策検討会】の実施・運営

西淀川公害裁判の和解によって設置された「西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会」での課題を検討することを核として7回実施した。「連絡会」が初めて公開で実施されたことに伴い、これまでPart5まで作成してきた提言の蓄積を踏まえた政策づくりが中心的な課題となった。

【中島工業団地内での低公害化TDM実験に関する調査】

地元・中島工業団地協会での調査の蓄積を活かし、阪大・新田研究室との共同研究「中島工業団地による地球温暖化防止実証実験」を行った(11月中旬~2月末)。「エコドライブ」の効果に関する実証実験を工業団地内の運輸業

者・三協運輸㈱の協力により実施した。

また、工業団地内での低公害化の取り組みの一環として、天然ガス車普及の可能性を検討。大阪市内ですでに天然ガス車導入の実績をもつ事業者に対して「貨物車の利用と天然ガス車の導入取り組みに関する事業所アンケート調査」を実施した(協力:大阪ガス㈱)。

【西淀川地域沿道まちづくりに関する調査】

2001年度からの継続調査として実施している「西淀川地域の沿道まちづくりのあり方に関する調査」の蓄積を踏まえ((特活)地域デザイン研究会への委託)、これまでの調査報告書概要版を作成した。区内野里地域でのアンケート調査を実施すべく調査項目の検討や地域との調整など準備作業を行った。

【「道路環境市民塾」の開催】

道路環境や交通問題に関する市民向けセミナー「道路環境市民塾」を実施(4~10月、全7回)。道路交通環境の分野における普及方法として新たな方向性を探った。

【交通環境教育のプログラムづくり】

交通環境教育に関するプログラムの体系化にむけて、交通に関する環境教育に関する情報を収集した。

②市民主体の地域づくり推進事業

【『市民活動のための環境アセスメント講座』運営の手引き』作成検討業務】

環境事業団地球環境基金部委託事業として昨年度から継続している「環境アセスメント講座運営の手引き及びCD-ROM作成業務」を行った。

【環境に配慮した地域づくりに関するプログラムの普及】

環境事業団地球環境基金部主催「地球環境市民大学校」において「環境アセスメント講座」を長野県松本市において実施した(協力:NPO地域づくり工房)。

【良好な大気生活環境推進手法の検討】

環境省大気生活室の請負事業として、ヒートアイランド対策シンポジウムの開催(東京、大阪)と自治体へのアンケート調査を実施した。また、今後の政策提案につなげるため、和歌山大学神吉研究室の協力を得て大阪府内の自治体とNPOにアンケートを実施した。

(2) 公害病患者的健康回復や生きがいづくりを進める活動(環境保健)

①公害病患者的生活実態を把握する事業

【公害病患者的生活実態を把握する調査の実施】

環境省からの請負業務として「公害病認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究」を実施した。保健、福祉、公害医療などの専門家の協力により構成された検討会では、公害医療機関に対するアンケート調査および、認定患者の公害医療機関に対する意識調査をおこなうため、実施方法、調査票案の作成などについて検討した。また、社団法人西淀川区医師会および大阪府保険医協会の協力を得て、大阪府内の公害医療機関に「医療機関・医療従事者を対象にした公害医療に関するアンケート調査」を実施した。

環境省が地方自治体を通じ、65歳以上の公害病認定患者約18,500人を対象として2月1日から29日にかけて実施した生活実態に関するアンケート調査に、財団が問い合わせ先となり協力した。

【西淀川公害患者と家族の会会員調査】

西淀川公害患者と家族の会の会員約 200 人に、グループによる聞き取りを 7~8 月の間に計 7 回、個人への聞き取りを 12~1 月の間に計 5 件行った。

【水中リラックス教室事業の実施および普及手法の検討】

高齢の公害病患者を対象とした水中での運動の取り組みをすすめるため、2002 年度に作成した冊子『ぜん息患者のための水中リラックス教室運営の手引き』の成果をもとに、「水中リラックス教室」を尼崎と名古屋で 8 回開催し、79 人が参加した。また、事業を実施した様子を撮影した映像を VHS と DVD で記録化した。

【民間デイサービス施設を活用した公害病認定患者等の園芸活動】

大阪コミュニティ財団などの助成をうけて、区内佃地域にあるミニデイサービスハウス（民間運営による託老所）ひまわりの家の庭で、西淀川公害患者と家族の会会員や、託老所の利用者などが参加する園芸療法を活用したリハビリテーション活動「園芸クラブ」を、4 月 22 日~12 月 16 日の間に 28 回実施した（大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校との連携）。

【転地療養事業への協力】

西淀川公害患者と家族の会が実施した転地療養事業において、参加者のニーズを把握し、より効果的な事業とすることを目的にアンケートを実施し、調査結果を取りまとめた。

②環境保健に関する政策・提言事業

【公害保健福祉事業の実施状況の把握】

公害保健福祉事業に関する情報収集と整理をおこなうために、西淀川保健福祉センターと大阪市保健総務課と懇談した。

【効果的な公害保健福祉事業のあり方に関する政策づくりのとりまとめ】

2002 年度に実施した患者会会員への聞き取り調査の結果をとりまとめ、第 44 回日本社会医学会で報告した。

日本環境会議環境再生政策研究会公害被害再生政策部に参加し、活動交流や情報交換をおこなった。

(3) 公害の経験を伝えるための資料保存・活用

(資料保存)

【「公害問題資料保存研究会」、専門委員会の実施・運営】

今年度は公害健康被害補償予防協会の委託業務として「大気汚染公害問題資料のネットワーク整備のための情報整理と普及に関する業務」を実施した。これまで収集・整理してきた資料にはどのようなものが含まれているのかを情報整理して、わかりやすく提示することを試みた。

公害問題資料保存研究会では資料取扱い要綱案などの検討をおこない、財団において資料館機能を発足させる場合の課題などについて意見交換をおこなった。

【「西淀川地域研究会」との協力】

小田康徳・大阪電気通信大学教授が主宰する西淀川地域研究会を実施した。財団は事務局として、報告者との日程や内容の調整、広報、会場準備などをおこなった。

【所蔵資料の保存・公開にむけた整理作業】

資料の保存・整理作業について、所蔵資料の目録作成、データベースの修正、資料保管庫の整理、資料提供者へのヒアリングなどをおこなった。7 月~9 月にかけては、インターンの大学生 5 人が 5 週間にわたって資料整理の作業に従事した。

また、西淀川地域資料室の開架図書については環境・公害分野の登録番号の付け替え作業をほぼ終え、データベース入力情報と現物との照合作業に取り組んだ。

【他地域とのネットワーク化、世論形成のための活動】

11 月 29 日に「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」を資料保存にかかわる関西の関係団体と共催し、財団は事務局業務をになった（於：大阪歴史博物館）

リバティおおさか（大阪人権博物館）が行う常設展示のリニューアルにおいて西淀川公害被害者をテーマとした現在の展示もリニューアルされることから、展示の内容検討への協力や解説キャプション執筆者の選定、資料の提供などを随時おこなった。

桃山学院大学地域社会連携プロジェクト「生活環境史研究会」に財団からは職員 2 人が参加した。

情報発信という点では、助成金を活用して、資料保存活動の紹介リーフレットの版を作成した。

提言活動としては、環境省の平成 15 年度「NGO/NPO・企業の環境政策提言」にたいして公害問題資料保存研究会として、政策テーマ「大気汚染公害問題資料の保存と活用のための基盤づくり」を提出した（10 月）。

(4) 公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習

(環境学習)

【学校現場での環境学習関係事業への協力】

* 西淀川公害に関するプログラム作成研究会の開催

財団の環境学習事業の検討会として 2000 年度に発足させた「西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会」を合計 7 回開催した。公害問題を含めた地域の歴史を学べる約 20 キロの区内周回コースを 2 通り設定し、日本市民スポーツ連盟の通年ウォーキングコースに登録を申請した。

* 大阪府立西淀川高校の環境教育への協力（おおぞらプラン）

西淀川高等学校とおおぞら財団の連携による余裕教室活用事業「地域と連携したおおぞらプラン」を開始した。11 月に同校の文化祭に展示活動や患者の語り部活動、12 月に常設展の設営、3 学年の全クラスで西淀川公害を中心にした環境問題授業をおこなった。2004 年 2 月の西淀川高校 2 学年冬期校外学習では、西淀自然文化協会と協力しながら学習プログラムを提供し、当日の運営にも参加した。また、2002 年度に引き続き、同校の西淀川高校地域連携協議会のメンバーに選ばれた。さらに 2004 年度の校内の環境教育推進委員会への参加も決まった。

【大野川緑陰道路や矢倉海岸での自然観察】

財団設立当初から実施している 4 月のタンポポ調査、8 月のセミのぬけがら調査は財団評議員の北元敏夫氏の指導を受け、実施した。

また、地元を中心に活動している西淀自然文化協会、日本野鳥の会大阪支部などの各団体・組織や個人と協力し合って自然観察活動（大野川緑陰道路環境調査、矢倉海岸生きものさがしなど）や環境学習活動をおこなった。「子どもの参画べんきょう会」は月 1 回のペースで開催し、学童保育、子育てネットワーク、野外活動などの各関係者を中心メンバーに子どもの環境学習の理論や実践などのあり方を検討した。

日本野鳥の会大阪支部とは、月 1 回の探鳥会を協力して開催した。

【修学旅行の受け入れ】

昨年度に引き続き、学校での授業、修学旅行の受け入れ、市民向けの研修では、患者会と協働の出張授業、公害の歴史的授業と交通環境学習のワークショップと組み合わせたプログラムなどの依頼があった。

韓国司法修習生の研修の関西滞在中のプログラム企画を依頼され運営した。